

7/13(木) 災害復興制度研究所 主催

国際シンポジウム

「伝える・遺す・語り合う～災害の諸相をめぐって～
東アジアの新たな協働を考えるⅢ」

関西学院大学災害復興制度研究所は7月13日(木)、西宮上ヶ原キャンパスの大学図書館ホールで、国際シンポジウム「伝える・遺す・語り合う～災害の諸相をめぐって～東アジアの新たな協働を考えるⅢ」を開催します。

グローバル化が進む現代社会では、大災害の発生は被災国のみならず、国境を超えた問題として大きな影響をもたらすようになっています。

自然災害が相次ぐ東アジアでは、近隣諸国との緊密な連携が不可欠であり、災害復興制度研究所は2016年1月から「東アジアの新たな協働を考える」をテーマに国際シンポジウムを開催してきました。第3弾となる今回は、災害をめぐり経験をどのように伝え、その記憶を未来に教訓として遺していくのか、さらに災害からの「復興知」をいかにして共有し継承していくのか、災害の諸相をめぐって復興のあり方を考察します。

※一般参加可、申し込み必要、無料

■日 時: 2017年7月13日(木) 13:30～17:00

■会 場: 関西学院大学図書館ホール
(兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155)

【プログラム】

- 開会挨拶: 長岡徹(災害復興制度研究所 所長)
- 趣旨説明: 野呂雅之(災害復興制度研究所 主任研究員)
- 報告:
 1. 郭連友(北京外国語大学 北京日本学研究中心一長・教授)「中国唐山大地震の歴史と記憶」
 2. 山中茂樹(災害復興制度研究所 顧問)「阪神・淡路大震災と災害報道」
 3. 王鑫(北京大学 医学部 講師)「中国における関東大震災の報道をめぐって」
 4. 張慧(北京国際関係学院 准教授)「震災後における少数民族文化の保護」
- 総括セッション: 山泰幸(災害復興制度研究所 副所長)
- 申し込み方法: 下記の問い合わせ先にご連絡ください。
- 問い合わせ先: 災害復興制度研究所

Tel: 0798-54-6996 Fax: 0798-54-6997

Email: kgu_fukko2005@fukkou.net



KOBE PRアンバサダーとして 神戸の魅力を世界へ発信

ホセ ダビ ボーデン スベルビさん(右)

経営戦略研究科専門職学位課程2年生(ドミニカ共和国出身)

エルギュベン カリンさん(左)

経営戦略研究科専門職学位課程1年生(ドイツ出身)

ホセさんとカリンさんは、外国人から見た神戸の魅力を、SNSを通じて世界に発信する「KOBE PRアンバサダー」を務めています。神戸市が昨年からはじめた取り組みで、今年は15の国・地域から市内在住・在学・在勤者を中心に25人が選ばれました。ボランティアで任期は1年間。市が企画するイベントやツアー、意見交換会への参加、暮らしの中で見つけた神戸の生活文化や魅力の発信、市民への取材など、活動内容は多岐にわたります。



2年連続でアンバサダーを務めるホセさんは「3年間住んでいる神戸は、私にとってホームそのもの。街の魅力を多くの人に知ってもらいたい」、カリンさんは「マーケティングを学んでいるので、自分の知識や経験を使って大好きな神戸を発信したい」と意気込みます。

二人のSNSには、生活文化や歴史などの魅力が分かる多くの写真が複数の言語で投稿されています。「私たちの視点で良いと感じたものを積極的に発信している。母国の友達も興味を持ってくれている」と言います。

「神戸は本当に美しい街。大阪や京都ばかりが目立っていて、神戸のことを知らない外国人が多いのはもったいない。活動を通じて、外国人から注目される街になればうれしい」と話す二人。7月15日からの神戸開港150年記念イベントにも参加する予定で、今後も「KOBE」を発信し続けます。

二人のSNSは、神戸市HP「KOBE PRアンバサダー紹介」よりご覧ください。

<http://www.city.kobe.lg.jp/information/public/prs/meettheKobePRAs2017.html>